

令和5年度 学校関係者評価・第三者評価 報告書

奈良学園登美ヶ丘中学校高等学校

本年度の学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

- ①令和5年 11月20日（月） 13:30～15:00
- ②令和6年 3月 8日（金） 10:00～12:00

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

- ①令和5年 6月15日（木） 10:00～11:30 （幼小中高合同）
- ②令和5年 11月22日（水） 10:50～12:30 （中高）

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

1. (1) 日時：令和5年11月20日（月） 13:30～15:00

はじめに、本日の予定を確認後、小学校の総合的な学習の時間（広島宿泊学習の振り返りの様子）の見学、M4 学年（中学2年）の英語の授業後を指導いただいた。

- (2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）
- (3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

- (4) 幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

①参観授業の感想

M4（中学2年）：Martin Luther King Jr.のスピーチを中学生向けに合わせた内容にして使われていたのは、中学生が暗唱したり勉強したりするのに良いレベルだと感じた。発音練習を一文やワンフレーズごとに丁寧に指導されていたことも良かった。反復練習は大切ではあるが飽きがききしてしまうところがある。参観授業では、飽きがこないように活動されていて良かった。

M1（小学5年）：子どもたちが詳細に記録したことや体験したことにもとづいた活動をまとめたので、具体的でかつ見学した時の気持ちがりリアルに表現されていて良かった。オンラインで事前に学習できていることは、とても効果的だと感じた。

自分のしたことや感じたことを推敲して書くことで思考も深まっていくことも感じられた。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

【幼稚園】：園で行う体力づくり、マーチング活動、日本や外国の文化を学んでいる（漢詩の素読や英語活動）こと、豊かな自然（棚田や芝生のグラウンドなど）で五感を使った活動、異学年の活動などについて説明を行う。

保護者に園の様子をより知ってもらえるように今年度よりブログだけでなく保護者ページに写真を掲載したり、玄関にも掲示したりするようにしている。

【小学校】：小学校が現在取り組んでいるユネスコスクール申請に向けて今年度どのように進めてきたかを説明する。

ユネスコスクールへの取り組みを通して、中学校以降の探求的な学びを進めていく基盤となる体験や経験を積ませ、その中で身につけられる資質能力をつけさせておくことで中学校以降の力をより自立的に発揮できるようにすることと、そして子どもたちが能動的に学ぶことへの価値観を自分たちの中に位置づけていけるようにしていきたい。

【中 高】：4年前から行っている探求学習について説明をする。

答えが一つでない課題に対して挑戦して、調べたりデータを集めたりしながら最適解に落とし込んでいく活動を行っている。間違いや失敗をおそれずに考える過程の中で学ぶことの大切さに気づかせていきたい。また、探求学習で学んだことを教科学習にフィードバックしていけるようになっていくようになれば良いと考えて進めている。

③評価者より

○探究力を育むことが幼稚園から高校の取り組みが系統立っていることが良く分かった。

○子どもたちの学びを考えたとき、異学年や異校種の交流はとても大切である。年少者にとっては将来の目標やゴールがイメージしやすくなり長期的な動機付けにつながる。また年長者にとっても責任をもって何かをやることで責任感ややりがいを感じられるようになる。そのような活動が随所で行われていることはとても良い。交流の時間を調整するのは難しいと思うが続けられるといいとも思う。

④その他 次回は来年2月末から3月初めに1年間の教育活動について意見をいただく。

2. (1) 日時：令和6年3月8日（金） 10：00～12：00

はじめに、本日の予定を確認後、幼稚園の保育の様子を、その後PI学年（小学1年）の英語の授業を参観後、MI（小学5年）とM2（小学6年）の英語のスピーチ（録画）を見ていただき、ご指導いただいた。

(2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

(3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

(4) 幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

①参観の感想

- 【幼稚園】：・園庭で園児がのびのびと活動していて良かった。
- ・工作も上手でハサミやのりも上手に使えていた。
 - ・見学に来た先生たちに園児がとても社交的な様子を見て、普段から小中高の先生が園児に関わりを持たれていることが良く分かった。
- 【小学校】：・1年生の授業で音から英語をとらえるのはとてもよい。
- ・英語表現の音と意味を体で表現しながら覚えるのはとてもよい。
 - ・身体表現だけで終わっている児童がいたので、先生（音声）に続けて声に出すとさらに効果的である。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

各校種、2学期の保護者アンケート結果及び分掌・委員会の年間総括より報告を行う。

- 【幼稚園】：・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。
- ・小学校との連携において、コロナで行えていなかった幼小の交流が行えるようになった。また中高とはハロウィンパーティーや自然再生研究会による出前授業など様々活動ができた。
 - ・情報提供について、保護者に園の様子を担任からも伝えているがブログや奈良学園幼稚園日記でも伝えたことはアンケート結果からも評価されていたように思う。さらに子供の様子を伝えられるように個人懇談も3学期急遽実施した。来年度は個人懇談を毎学期実施（従来は2学期のみ）の方向で検討している。
 - ・1月1日に起こった能登地震を受けて避難訓練をし、園児に安全についての教育を行った。
 - ・2学期は行事が多く、行事に追われる保育となっているところがあるので行事について精選や順番を変えるなど検討していく予定。
 - ・共働きが増えていることを受け、預かり保育や担任から子どもたちの普段の様子を伝える方法についても検討が必要になっている。
 - ・保護者が育児についての悩みをもっと相談しやすい教育相談体制を整えていく必要がある。
 - ・園児募集に向けて広報活動を積極的に行っていく。
- 【小学校】：・志願者増に向けた広報活動として、webの活用や学校に足を運んでもらえるような有効な企画について効果検証を行いながら進めてきた結果、内部志願率や一般志願者数が微増となった。
- ・縦割り活動で主体的な活動が実践できる機会が確保できた。またユネスコスクールチャレンジ校としての取り組みにおいて、ユネスコ委員会を毎月行ってそれぞれの学年の活動の柱を検討し、ストーリーマップが作成できた。これらのことを通じて教員の指導の方向性が整った。次年度はストーリーマップをもとに実践ともに教員の指導力向上も求めていく。
 - ・デジタルシティズンシップ教育にもとづいた情報モラル教育を実践しているが、児童や教員だけでなく、保護者にも浸透させる必要がある。

- ・研究研修において、年間で3回の授業交流と2回の全体研を行うことができた。また、コロナ前のように事後研も参加型の研修を行えた。
- ・夏季休業中に研修 DAY を設け、入試問題の解説、特別支援教育、デジタルシティズンシップ教育、いじめ研修などを小学校全体で行えた。
- ・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。アンケート結果を受けて保護者に日頃の児童の学習の様子を見てもらえるように、来年度は公開授業 DAY（仮称）を設ける予定。
- ・行事ごとに終了後にアンケートを行い、アンケート結果をもとに行事を進めていることで、保護者も協力的にアンケートに答えてもらえるようにしていきたい。

- 【中 高】：
- ・中高スローガンの「子どもの伸び率日本一」が教員だけでなく生徒にも浸透してきている。
 - ・個別指導塾と連携した放課後自習室「尚志館」において、月一回学習カルテを保護者にフィードバックしたり、尚志館の運営管理者が教員にも生徒の学習状況を報告したりすることで、学習状況が大きく改善されている。
 - ・尚志館のチューターには本校の卒業生が8名在籍している。本校のカリキュラムや行事を知っている卒業生が学習指導や進路相談も行ってくれている。
 - ・大学探訪を実施して、志望大学にあこがれを持つだけではなく、大学でどんな研究ができるのかを OB や OG に個別に対応してくれることでより大学に関心を持てる機会となった。今年度は初めて医学部探訪も行った。
 - ・保護者に対して進路について話を今までは予備校の先生に行ってもらっていたが、今年度より進路指導部が中心となって行うようになった。
 - ・進路講演会を生徒と保護者それぞれにあった内容に変え、別々に実施することを検討している。
 - ・進路指導室が整備され、生徒が資料を見に来たり生徒だけでなく保護者も進路相談をしに来たりできるようになった。大型モニターも設置され、進路指導室でオンライン研修も受けられるようになった。
 - ・生徒指導における基本的な対応の仕方や手順、生徒理解について教員で共通理解をする機会を設けた。指導と支援の観点で対応できるようにしている。
 - ・紙ベース広告から web 媒体広告にして3年目を迎える。今年度は受験者が大幅増になった結果より本校に対する関心や期待感が高まってきたことが感じられた。
 - ・ターム留学（高1）の参加生徒はモチベーションが高く、大学受験でもよい成果をあげている。来年度はオプションで中3・高1を対象にシンガポール研修を計画している。
 - ・探求学習は4年になるが、卒業生が大学の研究室やゼミでリーダーシップを発揮してくれたり多様な意見が出してムードを高めてくれたりしている。ただ、ルーブリック評価の活用課題がある。
 - ・いじめ対応について、集約会議（年2回のいじめアンケート後及び週1回の生徒指

導部会) をしっかり行って解決に向けて進められるようにしている。

③評価者より

- アンケート結果を保護者にフィードバックをすることで保護者の安心感につながるので、とてもよいと思う。
- 各校種からの活動が保護者アンケートの結果から見ても充実した活動になっていることが分かった。
- 尚志館の取り組みにおいて、大学でも生徒と先生の距離が近い方がモチベーションが上がるという話を聞くので、卒業生がチューターとして対応してくれるのはとても良いと思う。
- 5, 6年生の英語のスピーチを見て、先日(2/14)見せてもらった中学生の英語のプレゼンが小学校からの積み重ねであるということを改めて感じた。小学校でしっかりした教育を行っているので、中高でさらに力をつけていることが感じられた。
- 小学生にも中学生の英語のプレゼンを見せることで小学生の良いモデルとなり、子どもにとって良い手本になると思う。そして小学校の教育活動もさらに良くなると思う。

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

1. (1) 日 時：令和5年 6月15日(木) 10:00~11:30
- (2) 評 価 者：蜂須賀雅代(登翔会会長)
佐々木雅代(高等学校副会長)、有馬由喜(中学校副会長)
太田亜賀沙(小学校副会長)、黒田衣美子(幼稚園副会長)
- (3) 学校園参加者：安井幸至(総括監兼中高校長)、梅田真寿美(小校長)、槇 康二(幼稚園長)、
三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)、岡井幸紀(小学校教頭)
日比 忍(小学校教頭)
- (4) 協 議 内 容：1. 登翔会(PTA)役員へ学校関係者評価委員として委嘱をお願いする。
2. 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針と核となる取り組みについて説明する。各校種からは以下の重点内容を中心に説明する。
- (5) 各校種からの説明
 - 【幼稚園】・小学校との連携
 - ・昨年度の文部科学表彰された内容の継続
 - ・地域等との連携について
 - ・預かり保育の充実、課外活動の充実
 - 預かり保育のニーズ、小学校で行われているならとみアフタースクールとの連携
 - ・園児募集について
 - 園児募集につながるように、幼稚園の良さをより多くの人に発信できるかを保護者の立場からの意見もいただきたい。
 - 【小学校】・「確かな基礎学力と学びに向かう力」を重視したい。

- ・体力の向上についてもしっかりと取り組みたい。
→数年来の取り組みが、授業に向かう姿勢に変化が現れている。
- ・個別最適化した場の構築を図る。
- ・ユネスコスクール加盟への申請を行っている。
→1年間の審査期間を経て決定。
- ・系統的な探究活動の実施計画の作成・試行。
- ・基礎学力を育てる具体的な方策→主体的な学習の必要性
- ・道徳に対する取り組みの充実。
- ・年間を通して、家庭に対して児童の学習活動の様子だけでなく、学習のねらいなどを通信等で発信していく。
- ・進路指導の充実
→内部進学が近づく M1,M2 での内容、プライマリーからの積み上げの必要性等
- ・子供が主体的に活動できるように、さまざまな学習の方向性を掴み、そこへ向かっていく必要性を感じさせたい。
- ・広報活動も含めて、紙媒体のみではなく、Web 媒体を利用した有効な方法で学校情報の発信していけるようにする。

【中学校・高等学校】

- ・尚志館の活用について→運営指導員の変更及び教員がチューターとして指導
- ・道徳教育・特別活動の位置づけにおいて中学年代での取り組みを充実させる。
- ・AUS 語学研修について
- ・総合的な学習時間の充実
→探究活動の体制を整備し、活動内容が充実してきている。活発的な活動の成果、座学では見せない姿、新たな一面が発掘されることとなっている。
- ・人権教育において、学年に推進委員を置くことで幅広い取り組みに繋がっている
- ・生徒指導について、学習に集中しづらい生徒への配慮や事象発覚時には指導の早期対応。いじめに関するアンケート、気づきシートの活用。
- ・進路指導について、数値(中期計画に表記)に表した具体的な取り組みを行っていく。
昨年度より大学探訪の再開し、本年度は医学部の計画を立てている。
難関大学への進学実績につなげる。
- ・特別支援教育について、発達にアンバランスのある生徒への配慮。担任、学年が中心で対応を行っていくが、教育相談や SC も活用しながら進めていく。
- ・さらによい学校を作っていくために未来戦略会議を立ち上げ検討を行う。
- ・生徒募集について、SNS を通じた広報の充実を図る。昨年度より受験料の変更し、「とりあえず受験」を無くす。
- ・施設、設備の改善について登翔会からの協力を感謝している。

(6) 保護者からの意見【幼稚園】○教員の充実をお願いしたい。

○幼稚園通用門のセキュリティーについて短時間ではあるが不十分なことがあるので改善をしてほしい。

【小学校】○体づくりの取り組みについて効果が出ていることが聞けて良かった。

【中 高】○未来戦略会議期待している。

【全体に対して】

○正門前の卒業記念品のモニターについて、今以上に有効的に活用してほしい。

○児童、生徒が間違わないように小学校職員室前のトイレが職員や来客者専用であることが分かりやすい表示にするか、全体への指導を行ってほしい。

(7) そ の 他 ・MI (小5) 以上で使用するリュックサックの修正について

→修正した生地や仕様は、好評であった。

・9月末実施の合同運動会について実施形態等について相談。

2. (1) 日 時：令和5年 11月22日(水) 10:50~12:30

(2) 評 価 者：《登翔会本部役員》

(会長) 蜂須賀雅代様、(高等学校副会長) 佐々木雅代様 (高等学校会計) 榎本仁美様、

(中学校書記) 森真理子様

(3) 学校園参加者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長

三笠高等学校教頭(司会)、立花中学校教頭(記録)、西海進路指導部長

(4) 当日の流れ

①10:50~11:00 挨拶(安井中高校長)

②11:05~11:35 M3 学年授業参観(M3C 英語：村山教諭(M3 学年主任))

③11:45~12:30 学校評価委員会

・11:45~12:00 進路指導部の取り組み報告(西海進路指導部長)

・12:00~12:15 今年度の重点取り組みとその進捗状況について(安井中高校長)

・12:15~12:30 質疑応答

○校長挨拶(本日の流れについて)

11/15にY芸術鑑賞を実施した。今年度は、文楽劇場(日本橋)で文楽を音声ガイド付きで鑑賞できた。M3、M4 学年については、一昨日(11/20)にM 芸術鑑賞をMY 体育館でミュージカルを鑑賞した。広報関係では、今週の土曜日(11/25)にプレテストを実施する。今年度は460名が受験する予定。内部進学という形でも、小中高の連携をしていきたい。

この後は、M3C 組の英語の授業を見ていただく。M3 の英語担当、学年主任でもある村山から ICT 機器を活用した授業を観ていただきたい。その後、進路指導部長の西海から進路指導部の1 学期の取り組み内容、今後の進路指導体制について、予定しているイベントも含めて内容の説明をしたい。私の方からは、重点的な取り組み内容とその進捗等について説明をさせていただき、皆様からご意見や

ご質問をいただく時間をとりたいと考えている。

○英語の授業見学の後

(A 委員)

このような授業は英語だけなのか。

(校長)

他の授業でも ICT を活用している。数学は、授業の中でバイシングボードを使った説明をすることも。板書授業も大切だが、單元ごとに使い分けをする使い方をしている。国語の授業では、文章を読んでどう考えるか、どう理解するかとの発問に、生徒が前に行って黒板に書き、先生がコメントをし、また次の生徒が黒板に書き、先生がコメントをするというのが通常の授業だが、生徒が、各自ロイロノートに書き込めば、一瞬に全員の解答が表示される。時間短縮にもなり、意見の比較もできる。同時に全員の意見を聞くことができ、生徒の解答を共有できる。解釈の方法や、どこから引き出した答えかというのも全員の結果が表示されます。線の多いところが太い線で表示され、1つの見方が共有できる。このように ICT 機器の活用の仕方は先生方によって工夫されている。

(A 委員)

重い Chromebook を毎日持って登校し、どのように使用しているのかと思っていたが、本日の授業を観て、納得した。

○進路指導部長の話（進路指導部の取り組みと報告）

進路講演会について、以前は、外部の講師（河合塾やベネッセ）を招いて保護者の方に聞いていただく形式だったが、一般的な内容の情報提供も大切だが、学校として進路指導部としての情報提供をしていく必要があると感じ、教員（進路指導部長）が対応するようにした。受験は情報戦のようなところがある。いかに情報を進路指導部から発信できるかということが重要だと思う。今年度は、M3・M4、Y1・Y2、Y3、Y4 という4つのカテゴリーに分けて講演会を実施する。M3・M4 では、中学に入って1年目、2年目の段階で、中高一貫校の中で大学進学を考えた時、今、何をしなければならないかということ、中学段階では、しっかり学習姿勢をつけることが重要であることを話す。Y1・Y2 は、文理選択があり、どの学部に進むのか、将来何になりたいのかと大人としての認識をしていくことになる。そして、本校は高校入試がないため、公立中学校の3年生でしたら高校入試に取り組み頑張ろうとしているときに、Y1 生は、大人になることを考えられることがメリット。進路指導部としても中3や高1の段階から将来を見据えて動けるようなサポートしている。Y3 と Y4 に関しては、大学入試が迫ってくるため、具体的な受験の作戦が必要。受験は、1月、2月に実施されるということが大きく変わり、特に私立大学では年内の秋の実施でほとんど6割くらいの入学者が決まってしまう時代になった。国公立大学も推薦入試を実施している中で、いかに手堅く確実に現役合格を勝ち取るか、作戦プランを提供する。今年度は、事前に保護アンケートを実施して、質問事項に対しては進路指導部から答えた。また、平日に実施すると参加しにくいという意見もあったため、次年度以降はなるべく土曜日に実施し、あわせてオンライン中継も考えていきたい。2学期には、キャリアトークを実施した。年齢の近い本校の卒業生が、中高に在籍していたときの様子や社会に出て今どうなのかを生徒に話をする企画。生徒たちは事前に2つの講義を選んで順番に聞く。生徒の希望が2つでは少ないこともありますので、今年に関してはすべて講義を録画したも

のを youtube で限定公開して、後で各自が見られるようにした。以前この行事は、保護者の方をお願いしていたが、年数が経って卒後生の数も増え、年齢の近い卒業生が話してくれることで教員が話すより生徒に伝わりやすいこともある。そういう意味でいい行事になっているという実感がある。

(Y3 学年の進路講演会に配付した資料について)

Y3 学年は入試まで、後1年少しということになる。ここからの内容は戦略的、作戦的になる。これが M3、M4 になると、もっと長い目で見たときに中学段階で英検をとっておくと大学入試に有利だから英検をとりましょうとか、もしくは中学の内容はまずは姿勢からきまるのでしっかりと学習姿勢を培っていきましょうという話になる。他の進路指導部の取り組みとしては、11/1 に、Y1、Y2 生の希望者を対象に、大学探訪という形で京都大学に、実際に教員が引率して見学していく。そこには本校の卒業生で京都大学に在籍中している学生たちが集まってきて、色々な話をしてくれる。12 月は、定期考査後の家庭学習日に、昨年度は大阪大学のみだったが、今年度からは医学部にも訪問させたいということで、大阪大学と同日開催で奈良県立医科大学に行けることになった。医学部志望の生徒が本校には一定数いるため、その生徒のモチベーションをあげるためにも大学見学を計画している。あわせて医学部専門の予備校の方と協力して、毎月1回面接の対策や面接を受ける上での考え方の基本となる小論文の書き方について月1回講座で実施し、11 月末には保護者と生徒の希望者対象に医学部受験を考えている方に、医学部を受けるために何が必要か、何をしなければならないのかといった内容の講演会をしていく。関西地区は学力上位層のほとんどが医学部を受ける状況ですから医学部はかなりハードルが高いが、中高一貫校の進路実績の指標は、医学部にどれだけ進学できるかが大きなポイントになる。京都大学は公立高校からでも合格できますが、公立高校のトップ高でも医学部医学科の現役合格となるとこれはなかなか難しいのが現実。そのためにも、6年間、教育をしていく以上、できる限り医学部へ合格するための情報を与えていきたいと思います。また、進路指導室を整備しています。資料の置いてあった場所を整理してオープンスペースにして、できるだけ生徒が利用しやすいようにした。保護者会、三者懇談が終わったあと等、進路相談という形で保護者の方が質問に来られるようになった。生徒の進路相談の場所や、指定校推薦で必要な面接試験の練習場所としても使える。進路指導室が情報の場となり、動きたい時に動ける場所となるよう環境を整えることに更に努めていく。

【質問・ご意見】

(A 委員)

進路指導の相談がしやすいことはとてもいいことだしありがたい。

(進路部長)

自分が教えたことのない生徒が来てくれる。「僕はこういうことを考えていますが、どうしたらいいですか。」と質問する生徒に、「こうしたらいいよ」とは言わないが、「決めるのはあなた自身ですが、決めるのに選択肢は情報として与えます」と答えている。最後は本人に決めさせる、そのために資料を集めなければならないので研修会や説明会には極力、出席するようにしている。

(A 委員)

情報を仕入れるのは、予備校へ行かなければならないのかなという考えもあるのかなと思うが、そんなふうにしていただけると予備校に行かなくてもよくなると思う。

(進路部長)

予備校へ行くとか塾へ行くとかは、あくまでもご家庭の方のお金の使い方なので、行かないでくださいとは言えないが、「学校がたよりない」から、「学校が何もしてくれない」から塾へ行かないといけないということはあってはならないと思う。入試広報では、「あなたの学校へいけば塾や予備校へ行かなくて良いですか」と小学生の親から聞かれるので、行くなどとは言えないが、「学校がしてくれないから行かざるをえない」というような学校にはしていない。預かった生徒をどうするかということを目指したい。

(A 委員)

是非よろしく願いたい。

いろいろな仕掛けをしていただいているのだなと感じた。

(進路部長)

各学年に進路指導担当がいますし、模試分析では他学年の内容を学年の進路指導部員で共有するようにしています。それでお互いに助け合えるようにしている。

(A 委員)

Y2 で進路講演会に出席したときに、科目選択で理科や社会の選択で悩んでいるときにそれぞれの良いところを教えていただいた。それを子供たちにもしていただいているか。

(進路部長)

している。他校でも、以前は担任まかせになっていた。担任の経験年数とかスキルで説明していた。これに左右されてはいけないので、本校の生徒には、同じ情報を手に入れてほしいと思う。そのために公式の情報というか学校としてはこう考えているというのを進路講演会で聞いていただき、その資料を学年教員が共有し、基本的にはそれをもとに話をしてもらうようにしている。

○校長（本年度の取り組みと進捗状況について）

今回の資料は、学校説明会で使っているものの一部である。

私立中高一貫校なので最終的には大学入試に必要な総合的な学力をしっかりと身につけさせたい。やる気スイッチというのは自分しか押せないと思う。人のために押しってもらうものではないのでそのためには作戦と情報を与える、その中で自分でもできるのだという達成感、成就感から自己肯定感ということにつなげていく、これが実際に自分のエンジンで自分の学習スタイルを見つけ出していくということ、そのためのいろんな仕掛けをさせていただいている。大学探訪や、富士学院にお願いしている取り組みもその一つ。尚志館については、運営管理者を改めさせていただいて学校の支援システムの一環でやっています。今は、基本的な学習習慣や勉強の仕方や定期考査の試験勉強の対策のみならず大学受験に匹敵するような内容にまで踏み込んでいただいているしチューターが21名来てくれているが、そのうちの7名が本校の卒業生。超難関大学にはいつてくれた卒業生が授業や、質問に対応してくれるが、自分たちが本校のカリキュラムを知っているため、これをやるには、次はこうした方が良いという話をしてくれるし自分の中学生時代、高校生時代の話を授業の合間にしてくれている。次に、探究学習について。4年前から始めました取り組みで、色々なテーマのもとに高校1年生は1年通じて週1時間、それ以外にも系統的な授業をしっかりと身につけるある意味詰め込みというところにある系統的な座学をやりながらユニット学習で夏休み前と冬休み前とかに2時間、3時間あるいは5時間というような特設時間を通じて

探究学習をやっていくということ。これで受験学力をつめるためだけではなくリーダーシップをとるであったり人の話をしっかり聞くであったりアイデアを発見するであったりということに繋がる。また、学びの基本ということで人間力をつける宿泊研修であったり異学齢交流、合同運動、MY 尚志祭であったりいろんな学校行事、それから部活動で先輩、後輩の良好な人間関係の中で目標を見定めて切磋琢磨する、これが最終、受験にも最後粘りというかたちで繋がっていきますし、目標を見定め、やりきれたという自分自身を律する力の育成ということにもなる。いじめに関しましても年間2回のいじめアンケートを行い、その後、集約会議もしながら早期発見、早期対応ということで、どうしても人間関係のトラブルというのは特に今は思春期の時期でもあり出てきますのでそこはしっかりと事実確認させていただき保護者へも連絡させていただきながらできるだけ誤解のないようにということで生徒同士、生徒と教師同士、教師と保護者というところのパイプをしっかりと保つということを大事だということを念頭に進めさせていただいている。

(A 委員)

ありがたい。いろいろな仕掛けを本当にしていただいているのだと感じた
今までも、本当にいろいろな仕掛けを考えていただいているのだなという事を感じていたが、あらためて今回話を聞き、実感した。入学させてよかったなと思っている。前回、尚志館が騒がしいという意見を聞いたのでそれを伝えたが、息子から聞く話だと、先生が見回りにもきてくれ、とても勉強しやすく喜んでいて。続けていただきたいなと思っている。

(校長)

本事案に関しては運営管理者を改めさせていただいた。スクール TOMAS の中で運営管理者として派遣していただいている担当者を変えていただいた。非常に熱心にやってくれていると感じている。個別面談や保護者への連絡、場合によっては職員室にも頻繁にきていただいて先生方と連絡や情報交換してくれている。正副担任が中心ではありますがそこを補完してくれるような動きをしてくれています。

(A 委員)

そういう施設が学校の中であること、息子も部活が終わって勉強しに行っているが、他に行かなくても学校で済むというのがとても助かっているし、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(B 委員)

中3になる娘と高2になる息子がいるが、こちらに入れたら大丈夫だろうと親的には思っていた。我が家としては、子供に勉強の方ももう少し頑張ってもらいたい。

(C 委員)

うちは姉がY2で、下が次、受験生6年生で外から入ってくる子と一緒にやっつけられるかということが不安でうまくサポートしていただけるかあと、同級生とつながりかわりがすごく多かったが、親からや言っても響かない状況を、男女関係なく関わる機会をたくさん持たせていただいている様で、頑張っ一緒にやろうぜ、みたいなことを男子から聞いて誘われていっしょに頑張ろうという気持ちになっていることを聞くので学校生活も人間関係もいい刺激をうけているのだなというのを日々感じている。いじめも全然ないと聞いている。雰囲気もすごく良いのだからって感じている。
オンライン英会話はM4とY3でやっているのですか。他の学年では実施はないのか。とりあえず導入ですか。

(校長)

オンライン英会話は、昨年から始め、本年度、M4まで広げてやっている。授業の内容で限られた時間数ですので M3 は見ていただいたような内容であり、今後また英語科の方で広げいてくれることを検討してくれると思う。

その他の面でも引き続きよろしくお願ひしたい。

《配付資料》

○鑑

○学校経営スローガン：「子どもの『伸び率』日本一をめざす」■本校で育む力

・「学び力」「探究力」 (校長)

・「国際力」「人間力」 (校長)

○「卒業生によるキャリアトーク講座」実施要項 (進路指導部)

○Y3 学年 進路講演会〈進路講演会で保護者に配付した資料〉 (進路指導部)

○11月17日(金)の週テスト範囲 (英語の授業)

○中学1年英語自習プリント No.35 前置詞②